

平成 17 年 1 月 28 日

揮発性有機化合物(VOC)排出抑制検討会
接着小委員会 御中

接着小委員会 委員 伊藤 豊(日本粘着テープ工業会)
西村 光男(日本製紙連合会)

要望事項

改正大気汚染防止法の施行により、裾切り案では剥離・粘着製造施設の96%が規制対象となる。今まで相当な削減努力をしているにも関わらずさらに、大きな経済的負担が予測されます。意見具申の5(5)実施に当たっての留意事項などを考慮の上、第5回 VOC 接着小委員会におきまして下記の各点につき御検討をお願い致します。

1. 裾切り指標について

剥離紙・粘着紙製造におきまして3,000m³/hを裾切りとすると、テスト機や小型機まで含み(排出量は50t/年以下)、実生産機は全て規制されることになる。第1回委員会参考資料1の11ページ8項には「特定の業種に負担がかかることのないように公平性を保つことが重要」と書かれている。よって、ある程度の自主取組みの範囲を認めて頂きたい。

尚、当業界は使用量の多い点については十分認識しており、処理技術の進歩に伴い、最近の数年間に急激に処理機設置が進んでいる。9月に行った調査では239台中201台に処理機を設置している。別紙に示すが排风量と使用量および排出量の関係を見れば明らかである。(別紙参照)

当業界としては社会的責任、PRTR対応、県条例対応のため排出抑制に向け対策を進めており、かなり実績が上がっている。一方、小さな機械や古い機械で排出量が少ない事や使用頻度が少ない機械は削減効果が少ない事などを踏まえ既設(10,000 m³/h)、新設(3,000 m³/h)を分けた裾切りとして頂きたい。

2. 排出基準値について

排出基準値 1,000ppmC は当業界の作業内容から考えてオーバーする可能性がある。つまり、有機溶剤を使って作業する場合、火災爆発の危険性を回避することと経済性を考慮して爆発下限の25%程度に濃度上限を設定するのが一般的であり、処理前14,000ppmCを目処として操業している。

VOC 処理機で90%処理した場合1,400ppmCのガスが出ることを考慮して頂きたい。

3. VOC 処理装置、特に溶剤回収装置の利点と課題について

剥離紙・粘着紙の業界は1施設あたりのVOC使用量が多い為、排ガス処理対策には関心が深く、処理機設置・材料変更・方法変更などを積極的に進めている。しかし、万全の対策となる方法は未だ確立されていないのが現状である。

現在、8割の施設に何らかの処理機が設置され(100台)、100台中43台が溶剤回収装置である。この内の約半数はトルエン、ヘキサンなどのみ使用する為、全量回収しているが、残りの半数については酢エチ、MEKなどの極性溶媒を使う為、回収・再使用の困難性から一時的に大気放出している場合がある。

言うまでもないが、回収溶剤は再使用しており、資源の有効利用や地球環境保全の観点から推進すべき技術と考えられる。但し、あらゆるケースに適用できる処まで技術が高まっていない現状では、少なくとも既設の溶剤回収装置について技術の進歩を待って対策する事とし、それまで規制の適用除外または猶予して頂きたい。尚、費用対効果の視点からも処理機未設置の設備から対策するのが効果的と考える。

4. 中小事業者対策について

「意見具申6ページの6.今後の課題」の中に「中小企業者向けの低価格で小型のVOC処理装置の開発を推進・・・」と書かれており、まだ開発されていない現状では経過措置を設けて頂きたい。

5. 無溶剤型剥離処理やエマルジョン型粘着処理への切替え移行中について

現在、VOC不使用への切替え努力中であり、技術進歩や社会的認知・支援が必要である。つまり、生産比率過半(50%以上)は適応除外または経過措置を設けて頂きたい。

<別紙> 裾切り基準の見直しについて

図1に当業界の施設の排風量とVOC使用量をプロットしたものを示します。3000m³/H以上でも年間VOC使用量が50トンを超える施設が多数あります。これらには上記テスト機、老朽、特殊品専用などによる低稼働機、低VOC転換推進機などが含まれ、実質的にVOCをあまり使用していないにもかかわらず規制対象となってしまう。一方、排風量が10000m³/H未満にも年間50トンを超える使用量の施設があります。しかし、排出量でプロットした図2で示されるとおり、排出量で50トンを超えるものは僅かであります。さらに、未対策機のみでプロットした図3でも明らかとなっており、排出量50トンを目安とするならば、当業界においてもその他の接着業と同等の10000m³/H以上の裾切りが設定されてもおかしくありません。

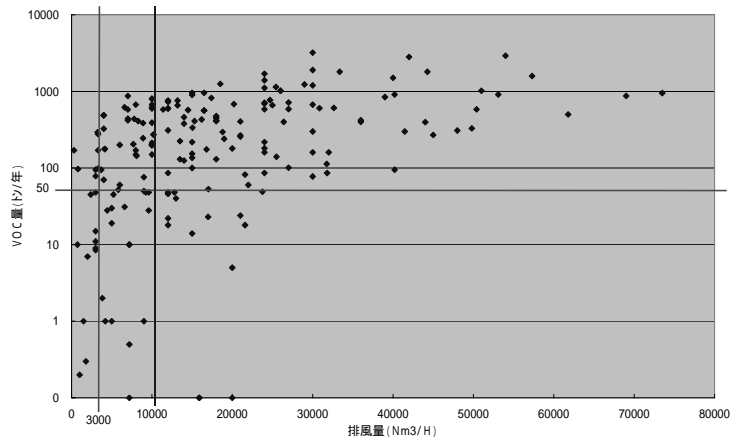


図1 排風量と使用量の関係

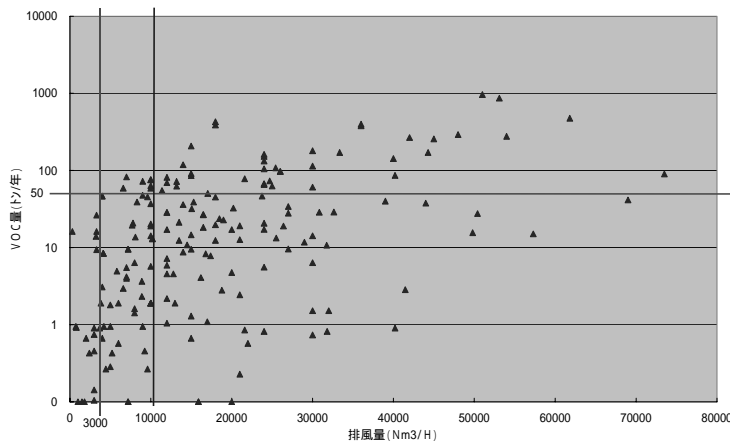


図2 排風量と排出量の関係

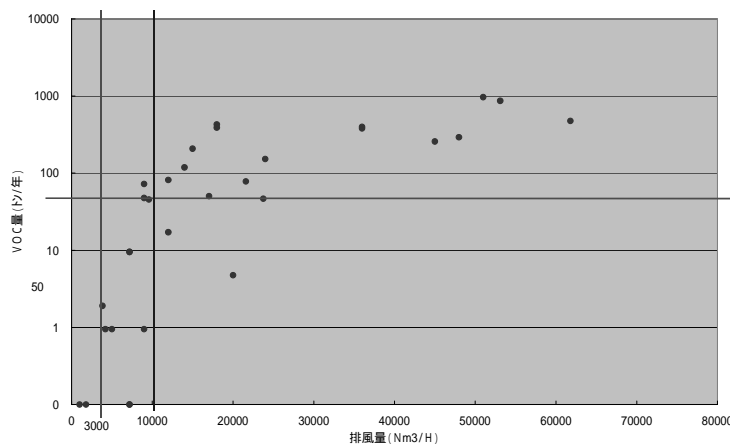


図3 排風量と排出量の関係(未対策のみ)